



★「気まぐれカモメ」

開店二周年

港にもてなしの場を

大震災を契機に元町にオーブンしたカフェ&ショッパ―「気まぐれカモメ」が開店二周年を迎えた。

昼は家庭料理や喫茶が楽しめるホッとした雰囲気、夜は一転、大人のムードが漂うお店だ。ランチの気まぐれ井セツト650円は日替わりメニュー。「売り切れ御免」なのでお昼はお早めに。夜はカクテルがおススメ。桂花陳酒ベールのオリジナルカクテル「カモメ」900円と白ラムベ



今日は中国語のレッスン

スの「神戸カクテル」1000円が開業以来1、2位を争う人気だ。

一年ほど前から毎週火曜と水曜（午後3時〜4時）に語学教室を開催。火曜日に英語、水曜日に中国語（北京語）を学んでいる。

「お店の生き残りにはオリジナルリティーが不可欠」とおっしゃる角本マスター。ユーモアあふれるマスター自身が「気まぐれカモメ」のオリジナルリティーと言えそう。

■気まぐれカモメ

神戸市中央区元町通2・3・4

太ビル2F

☎078・3333・1892

営業時間10時30分〜16時30分 18時30分〜23時

★「たっぷり召し上げれ」

お気軽フレンチ

東急ハンズ近く、生田ロードを少し下ったところに、4月21日、お酒落なフレンチレ



可愛らしい、花柄プリントでまとめられた店内

ストラランがオーブン。ビルの2階から垂れ下がるフランス国旗が目印だ。店名「ボナベティ」は「たっぷり召し上げれ」の意。フランスでは料理を出す時に添えられるお馴染みの言葉だ。

ランチは1200円と2500円、ディナーは2500円、3500円と5000円の各コースにアラカルト。ランチの1200円に300円プラスでデザートがつく。

本場フランスで修業、ホテルを経て開店した上田敏見シェフとお店を切り盛りする夫人・充恵さんの息もびつたり。「堅苦しいと思われがちなフランス料理をもっと気軽に低価格で召し上がっていただきたい」とアットホームな空間作りをめざす。カウンター席で調理が見られるのも魅力。

■ボナベティ

神戸市中央区下山手通2・1・17

城村ビル2F

☎078・3333・3848
営業時間 11時30分〜14時 17時30分〜22時

★赤と黒のハードバップバー「インディード！」



写真右が杉本朋也マスター

4月、トアウエストに登場したジャズバー「インディード！」。赤と黒の内装が刺激的だ。マスターの杉本朋也さんは高校時代からジャズを聞き始め、集めたレコードが約1500枚。ジャズバーを開くことが夢だったという。

「大人のひとに、じっくり飲んでじっくり聴いてほしい。チャージ5000円。ビール、ウィスキー（ともに600円）のほか、純粋日本酒（800円）も飲めるのが粋（真澄）もあるでよ。初代神戸マイスター井上誠さん描くリー・モーガン（トランペッター）の絵が、店内の雰囲気を高めている。インディード！」

■Indi

神戸市中央区北長狭通3・11・11

福一ビルB1F

☎078・331・7015

営業時間11時～16時 17時～5時

★自然の中でお茶しませんか？「ガーデンレストラン・バスコ」



デパートの屋上が、イングリッシュガーデンに

英国スタイルの緑豊かな庭園の中で、料理、デザート、紅茶などを楽しめる「ガーデンレストラン・バスコ」が話題となっている。それもそのはず、店が位置するのは大丸神戸店の屋上フロア10階。花と緑いっぱいのはここは、一歩足を踏み込めば、従来の百貨店屋上イメージが一新されるほど解放感あふれる空間なのだ。美味しいベーカーリーとして定評のあるバスコがプロデュースするだけにパンにうるさい神戸っ子も大満足のメニューが揃う。焼きたてパンを使ったローストビーフサンド、カンパニオムレツなど英国の家庭料理、本格派イングリッシュティーの他、英国バ

ブ風生ビール、ワイン、シャンパンなどアルコール類も豊富。これからの季節、降り注ぐ陽光の元、屋外テラス席でぜひ一度ヨーロッパの気分をお楽しみあれ。

■ガーデンレストラン・バスコ
大丸神戸店屋上

営業時間 午前10時～午後9時

☎078・321・7311

★ワイン通になれる

レストラン「シャガール」



シャガールの絵がかけられている

プロのソムリエを世に送り出している、日本ソムリエスクールのレストラン「シャガール」を5月20日（火）にオープンした。

ここのウリはやはりワイン。コースそれぞれの料理にあったグラスワインをソムリエがセレクトしてくれるセットはおすすめ。普通のレストランに行き、小人数でいろんな種類のワインを楽しみたくてもフルボトルやハーフボトル1、

2種類を頼んで終わってしまった。でもこのセットならワインの種類も覚えることができ一石二鳥。

生徒の実習の場としても機能することもあるレストラン。

「フレンチはちよつと堅苦しくて」と思っている人も気軽に訪れることができる。ワインについて何でも聞いてみよう。コース8000円、グラスワインセット3500円、

■レストラン「シャガール」

神戸市中央区日暮通3・5・20

日本ソムリエスクールビル7階

☎078・271・0810

営業時間18時～22時オーダーラスト

ツプ20時日・月・祝休

ソムリエスクールではワインおよびフランス料理の昼間、夜間の短期講座を開講。中途入学も受付けております

お問い合わせ

☎078・232・0810

★上海気分満喫の中国スナック（姉妹店）上海風味料理「蓮」

ママの帝静紅さんは、神戸に留学生でやってきて十年目の上海っ子。まだ留学生の少ない時代に神戸で苦労を重ね、今や南京町の上海風味料理「蓮」を妹の静璃さんと開き、中国風スナック「蓮」を生田新道の神戸サウナを南下した



上海料理「蓮」姉妹で

所にあるシャルマンビル4階で倒れ、味噌、陽々の若い留学生達の面倒を見ながら上海ムードの明るく楽しい店を開くという人気者。（カラオケOK）彼女は「蓮」ハスの花は、花から根まで、花や食用、薬用と全部が役に立つでしょう。私も日中友好のお役に立ちたいです」とけなげに語っている。

■スナック

神戸市中央区北長狭通2・10・11

第7シャルマンビル4階

☎078・321・2178

営業時間19時～24時 日休

■料理店

神戸市中央区元町通21・15

☎078・392・2278

営業時間11時～21時 平日15時～17時

休 ランチ3500円／夜一品料理5000円

コース3500円

5000円



スナック「蓮」は留学生と

ポケット ジャーナル



★「この街・素敵コンテスト」
新星和不動産が絵画・写真・エッセーを募集

新星和さんが「星」をプレゼント。創業45周年・新創業10周年を迎えた新星和不動産では、記念イベント「この街・素敵コンテスト」を実施中。自分が住んでいる街をデ



日生ニュータウン「カリヨンの丘」佐々木悟郎画

ーマにした作品（絵画・写真・エッセー）を募集している。大賞受賞者には「あなたの星」（国際星名登録システム）によりアメリカ会議図書館に永久保存」と旅行券（ジュニア部門は図書券）が贈られる。締切りは8月31日（必着）。詳しくは問い合わせを。

■新星和不動産内「友の会」事務局
〒471-0120 0120・2
9・6677

★NHK新ドラ「甘辛しやん」成功祈願祭行われる

5月21日（水）、西宮神社で10月スタートのNHK朝の連続テレビ小説「甘辛しやん」の成功祈願祭が行われた。震災から2年半を迎える地元では、ドラマのヒットが復興の起爆剤になればと期待を寄せている。

物語の舞台は神戸・灘五郷の酒蔵。伝統と格式を重んじる世界で数々の苦難を乗り越え、「しやん」とあがった理想的な酒造りをめざす女性・神



佐藤夕美子さん

泉の半生。

泉を演じるのはミュージカル「アニー」の子役でもおなじみの佐藤夕美子さん（18歳）。ドラマでは19歳から40歳代半ばまでを演じる。この日初めてお神酒を口にしたら彼女は、「口当たりが軟らかい」と気分はすでにヒロイン。

★子供達に愛と夢を
神戸ミュージカル開催

5月26日神戸ハーバーサカスで、この夏開催の「パソナドリームシアター97神戸ミュージカル」の記者発表が行



小笠原さんと「芦屋どんぐりコール」の子供達

ユージカル」の記者発表が行われた。

日に日に力強く復興していく神戸の街とは対照的に、今なお傷ついた心を癒すすべもない多くの子供達がいる。公演では七百五十六席のチャリティーボックスを設け、震災遺児や孤児を招待。収益金の一部は作家・藤本義一さんが

★誕生日ありがとう運動
さあ、お散歩出発！



今年度はHくんがお相手です。
Hくんは三才、かわいかわい男の子。約五十分あまりの山道コースです。

Hくん、道にすわりこんで何かを取っています。早く行かないと皆に遅れるよ、汚いものさつたらダメよ……そんな禁止言葉が私の心の中をぐるぐるめぐっています。時計にとらめつけにしながらイライライライ。

Hくん、やっと腰をあげ私の所に走ってきました。手に握りしめた小さな物を私の手にのせてくれました。ありさんです。私にプレゼントするためにできてくれたのだろうか……。そう思うことができました。「ありがどう」。素直に受け取り、そっと握りやりました。

帰りの道、鳩の広場で小休止。小休止するのは私だけ。Hくんは「コ」と言いながら、両手をいっぱい広げて鳩を追いかけ回します。鳩とHくんは友達です。まるでHくんを待っていたかのように素早く逃げ回ります。なかなかつかまりません。仕方なくHくんは公園の鳩の彫刻を抱いて、頭をなぞなぞするのです。Hくんにとってやさしい心づかいのある公園です。よかったね。Hくん。

あらゆる自然と友達になるHくんをみつめながら、あくせくと雑事に悩ま動いている自分を反省する一日です。

Hくん、ありがどう。誕生日ありがとう運動本部

〒650 神戸市中央区楠通4・2・2
菊水模型ビル3F（美川神社西）
TEL・FAX 78・360・1257

代表を務める「希望の家」建設準備会に寄付される。

ミュージカルは今年だけでなく、来年以降も継続して開催する予定。「震災を乗り越え、笑顔と弾む心で21世紀の創造にチャレンジする神戸の子供達を応援していきます」。

■期間 8月12日(火)・19日(火)※16、18日はリハーサル日
場所 新神戸オリエンタル劇場
入場料 3000円(前売り同一料金・全席指定)
公演団体 バンダイミュージカル、エルダ(LDA)、EGG、ミクロコスモス、芦屋どんぐりコール

問い合わせ 97神戸ミュージカル実行委員会 TEL078・362・80006

★トアロードに永島選手と神野選手現れる

Jリーグ10節ジェフ市原の試合がユニバー記念競技場であった翌日の5月25日、トアロードにあるサッカーショップKAMOにウィッセル神戸の永島昭浩選手と神野卓哉選手が訪れ、サイン会が開かれ



永島選手

た。時ならぬ人の列に行き交う人々もびつくり。何があるんですか、と覗き込んでいた。

当日は全日本代表の加茂周監督の実弟でもある加茂健社長も来店。集まった大勢のサッカー少年やファン約三百人が二選手と記念撮影後、サインと永島選手が契約しているLottoの景品をもらった。その上、写真は後日店に飾られ、取りにきた本人に手渡されるなど、店の粋な計らいに大喜びだった。

★街道をゆく展

平成8年2月に他界した司馬遼太郎さんが『週刊朝日』に寄稿した「街道をゆく」は、一九七一年にスタートして以来、多くの人に愛読された。国内外の72街道を歩き、連載回数は千四百七十七にのぼる。これは四百字詰め原稿用紙に換算すると一万八千枚を越えるそうだ。

5月中旬から、阪急ミュージアムでは、司馬さんの作品と故・須田勉太画伯をはじめとする挿絵を集めた「街道をゆく展」が開かれた。作品以外にも司馬さんが書斎で愛用した眼鏡や万年筆、司馬さんの遺稿などが展示され、来場者は目を細めていた。



須田画伯による司馬遼像

司馬さん独自の鋭い洞察力が生み出す文体と、須田さんの生命感に満ちた墨絵が一体となった「紀行文の傑作」は、今後愛読者を増やしつつけるであろう。

★第23回消費者プラザ展「ともに創ろう明日のくらし」

5月30日、兵庫県立神戸生活科学センターで、第23回消費者プラザ展の開会式と記念講演が開かれた。



林氏のユーモアに会場からは時折笑いが

開会式では所長の酒屋淑子氏があいさつ、続いて生活文化部長の宮崎秀紀氏がはげましの言葉を述べた。記念講演では、大阪大学教授の林敏彦氏が「ともに創ろう明日のくらし」規制緩和と自己責任」と題して90分にわたり講

■神戸の本棚

★やる気が育つ教育のヒント 山本紹之介著

やる気が育つ



講談社 1400円

子供の「やる気」を育てていきます。

子供が勉強しない、口答えする、親の悩みは尽きないが、口で言っただけで終わるにも限界がある。子供を変えようとするより、まずは親自身が変わらなければ、その可能性を信じるのが「やる気」につながるのだそう。

肯定型教育のススメ。

★四国へんろ風景

伊藤太一著



読売新聞社 1200円

読売新聞四国県版に約一年間連載された四国遍路記。

四国八十八ヶ所、別格二十番札所に加え、阪神・淡路大震災慰霊供養を兼ねて巡った高野山・金剛峯寺までを取録。分かりやすい文章と著者の手になる映画がまたたき。信仰、仏縁にはほど遠いという人も一読を、少しやさしくなれます。

演、軽妙な語り口で、規制緩和ではない規制改革の必要性を説いた。

消費者プラザ展は神戸・阪神地域の消費者団体、グループが一年間の活動成果を展示、発表する場として5月30日(金)～6月30日(月)に開催された。

★催し物in六甲アイランド

●5月30日(金)～6月3日(火)、神戸ファッション美術館で「アキコ伊達メタルアート展」が開催された。伊達さんの作品は堅い、冷たいと言



メタルの輝きが独特の空間を作り上げている

花時計



「神戸空港」を考える

関西国際空港は今、ときめいている。平成八年度の乗降客数は一八八〇万人を超えている。まさに、国際的な大空港としてデビューしたと言える。ちなみにシンガポールの「チャンギ

われる銅や真鍮を優しく、暖かく、独特のハンマーワークで表現しているのが特徴。巨大なオブジェから小さなアクセサリーまで多彩な作品が並

空港」の利用客は二二〇〇万人である。流石に関空の利用度は高い。二十四時間利用できるという海上空港の特色が生きている。今や関空は日本の表玄関の様相を呈している。

民族学博物館教授の石森秀三さんは、観光人類学の立場から、近い将来、世界的な観光ブームが起きる、「観光のビッグバン」が起きる」と予言されている。それは、文明的必然であると言われている。

現在、世界中で六億人近

び、特に小物は若い女性に好評だった。

●5月30日(金)～6月2日(月)、神戸ファッションマーケットで「ヒロ・ヤマガタ来場展97」が開かれた。この催しは展示販売会を兼ねており、全国からヤマガタファンもかけつけた。31日にはヤマガタ氏本人が来場、午後4時30分からはサイン会で盛況だった。氏の最新作は「スイスのチョコレート屋さん」と「モンテカルロの夜」。作品の美しさはもとよりその価格にも驚かされた。

人たちが旅をしている。二〇一〇年には一〇億人になると喝破されている。つまり、観光も地球規模で動くようになるかと推測されているのである。

一四〇万都市神戸も当然のことながら未来に対応できる施策を持たなければならぬ。神戸の街には、陸、海、空の結節点として、「明石海峡大橋」の完成と共に「神戸空港」が必要である。開港二二〇年を迎える神戸の課題である。

＜Y・Y＞

KOBE POST

★株式会社ワールドの煙崎廣敏社長が6月1日より社主に、寺井秀蔵さんが新社長に就任されました。

★作家の簡井康隆さんが執筆を再開。7月4日、新神戸オリエンタルホテル(会費1万円)で執筆再開・シユバリ章受章を祝う会が開催される。氏のますますの活躍を祈念。

★神戸ブータン友好協会(会長・安岡利美)は、5月11日をもって事務所が移転しました。〒650神戸市中央区三宮町1・10・1神戸交通センタービル8階・神戸地下街株式会社内TEL078・3991・4024 FAX332・5185

★石井一代議員が本年5月、議員生活25年を迎えられ、衆議院会議において永年在職議員表彰を受けられた。7月7日神戸ポートピアホテル(会費3万円)で祝う会が開かれる。

★君本昌久さん(詩人)がじくなつて3ヶ月。7月12日(土)午後1時より、パレス神戸2階大議場(会費8千円)において偲ぶ会が開かれる。当日は「飛鳥」のビデオ上映、「君本昌久の仕事」安水稔和、「彼の聖けぬけた時代」彩山平一、青木はるみ、倉橋健一ほか」と題したお話もあります。

田玉井方TEL078・451・4155
★(株)神港ジャーナル社古小信夫取締役/月刊神戸「KOBET」発行が、5月26日より事務所を移転。〒650中區三宮町・10・1神戸交通センタービル8階 TEL078・3925 FAX332・55078

★人形浄瑠璃「吉良吉三」代表・野澤吉三の後援会代表が6月をもつて横濱みさ子さんに、東京事務所〒166東京都杉並区高円寺北3・38・1 TEL&FAX03・3332・7326 関西事務所〒651・11神戸市北区星和台6・16・3 TEL&FAX078・5911・8592

K.F.S. NEWS 178

神戸ファッション市民大学OBによるグループ
神戸のファッション都市化をめざす

5月マンスリー講演

5月23日(金) 18時30分より神戸市勤労会館にて/講師:(株)大丸クレジットサービス 池本義治氏

「ショッピングマナーについて～上手な売り方・買い方」

現在では大丸クレジットサービスの大阪本社に勤務されている池本氏ですが、大丸百貨店に入社時から25年間は、外商一筋という接客サービスのベテラン。お客様との上手なお付き合いを通した販売ノウハウを数々の思い出とともにお話しいただいた。

●店頭売りだけでなかった?

外商という商売があることすら知らなかった新入社員の私は、入社して10日間程の研修を受けた後、いきなり法人担当として実践に出されました。右も左もわからないまま、前任者から引き継いだ200件にご挨拶をかねて営業するのですが、ある会社での出来事です。一般に法人の営業は総務部を窓口にすることが多いのですが、実はその会社のみ総務ではなく別に仕切っておられる人がおり、その人をお願いするべきだった!のです。自分を差し置いて総務に挨拶に通ったヤツという悪印象は、後の営業にもずっとマイナス要素として付いてまわりました。★教訓…初回営業の印象が、商売の成功権を握ること多し。最初のマイナスを簡単にはゼロに出来ないで、営業前の相手先調べは念入りに。お客様台帳の制作など引き継ぎ業務も重要です。

●お客様はセブンゲ

お客様が機嫌の良い時に営業し、すんなり契約できて大喜び。ところが商品手配を済ませて持参した時にお客様がご機嫌斜め

だったから大変です。同一人物と思えない変わりようで、そんな契約をした覚えはないと追返されました。お付き合いが基本の外商ですが、いつもお客様の機嫌が良いとは限らない。ましてやご機嫌ばかりを気にしては、こちらの神経がもちません。

★教訓…相手の機嫌バイオリズムをつかめ。不機嫌な時に伺って、良い話がお流れにならないよう、また機嫌伺いばかりで自分の神経が擦りへらないよう、事前に電話して様子を伺うなど、相手の性格や機嫌の流れをつかむ工夫を。

●販売の基本ルールはこれにつける

長年、接客業務一筋に過ごしてきて、私なりに学んだことは、お客様へのサービスとは、いかに自分を信頼してもらえるか、つまり相手の要望にいかにも迅速で心のこもった対応ができるかということ。マナーやサービスにゴールはありませんがお客様の言いなりになって振り回されるのではなく、自分が相手を調整、啓蒙する。店としてのポリシーを打ち出しながら、最低限ではなく、最高のマナーやサービスをできる環境を自分で作り出し、誰々さんだから安心と言っていただける信頼を築きだす。神戸は震災以降、大丸をはじめ、次々と新しいビルやショップが出来、ハード的には充実してきましたが、接客マナーを含めたサービスというソフト部分は、逆に質が落ちてい

るように思えます。神戸大丸も、店は奇麗になったが店員サービスが無茶苦茶といわれないよう



に、たとえ契約社員や派遣社員でも大丸にふさわしいサービスが出来る人員かどうか試験や教育を徹底するようにしています。

●KFS (店側) からお買い物する際のお願い 『お店のつとめ商品は命』

例えばファッションブティックなどでハンガーに掛けてディスプレイしている場合、商品の肩部分にふれてお気に入りを探していませんか。何十人に肩を触れられた商品は、パットはへちゃげて売り物になりません。試着時に少し注意すれば、化粧が商品に付くことも防げるのです。自分が買わなければ誰か他の人が買う可能性があるということを考えて、ファッション都市・神戸にふさわしいスマートなお買い物マナーの実践をお願いします。

●7月マンスリーは、KFS総会です。

日時: 7月18日(金)

受付18時 開会18時30分

場所: ホテルゴーフルリッツ15階
アンダルシアの間

会費: 8000円

国際宝飾展に行く

第一回神戸国際宝飾展 I J K 97

福元 早夫 作家

六月十二日、JRの三宮駅前からポートライナーにのって、梅雨の晴れ間の神戸港を車窓にながめながら、第一回神戸国際宝飾展へいった。海も空もポートアイランドの新緑や高層のビル群も、太陽をあびてさんさんとかがやっていた。正面ロータリーではデキシール・ランド・ジャズのパンジョーとベースが低音をきそいあって、国際宝飾展の開幕へとみちびいていった。



↑デキシールランドジャズが盛りあげた
→第1回神戸国際宝飾展のテープカットの瞬間

オープニングセレモニー

純白のドレスにかがやいた三名のパールプリンセスが登場してきた。つづいて、オープニングセレモニーの参列者が、展示場の正面の総合受付前の特設会場に、つぎつぎに姿をあらわした。中央にこの第一回神戸国際宝飾展の主催者で、リード・エグジビジョン・ジャパン株式会社の代表である石積忠夫氏が立った。その右よこに、日本真珠振興会の会長である田嶋俊作氏がならんだ。左よこに副会長の山本泉氏が立った。

神戸市の笹山幸俊市長が田嶋氏とならんで立った。そのほかに神戸商工会議所の会頭である牧冬彦氏の顔があり、イタリア貿易振興会大阪事務所の副所長であるヴィットリオ・メコツィ氏の顔もあった。ドイツ連邦共和国総領事館の総領事である



国内ジュエリーエリア内のメーカーとバイヤー



田崎氏をはさんで主催の石積氏と笹山神戸市長

日本真珠振興会の会長である田崎俊作氏があいさつに立って壇上にのぼった。田崎氏は第一回神戸国際宝飾展の開幕をいまこにつけてから、この宝飾展に、世界の二十一ヶ国の地域から、約二百五十社の真珠や宝石などの宝飾品が、この神戸国際展示場を集結している、といつてから、関係者にこの展示会が無事に成功するように、協力をもとめた。

司会者のマイクで、セレモニーははじめられた。パールプリンセスたちの手で、テープカットの用意がすすめられて、ファンファーレが高らかに鳴りたつた。九時四十五分だった。この国際的な大セレモニーをひと目みようとして、展示場の正面のロビーは、足のふみ場もない人だかりだった。関係者のほかに、近くのビルのオフィスから顔をだした女性たちが目だつた。

ニルス・グルーベル氏が立つて、インド総領事館の総領事でアショーク・クマール氏もたつた。財団法人遠東貿易サービスセンター大阪事務所の副所長である李富山氏が顔をならべた。世界真珠機構からアメリカを代表してテリー・デリア氏と同じくタヒチからマーチン・コエロー氏が、それにくわえてカナダを代表してビエル・アッケリアン氏が、と、国際色ゆたかな顔ぶれがならんだ。

この展示会の特徴は、ワールドパールエリア、国内ジュエリーエリア、海外ジュエリーエリア、ジェムズストーンズコーナー、宝飾関連製品コーナーに分かれ、真珠以外の宝飾品も数多く出品されていたことだった。会場の、2号館のワールドパールエリアの宝飾空間で、真珠の美しさに見とれていると「タカハシパール」の副社長である高橋洋三さんに出あった。すばらしいですね、と声をかけると、「なんせ第一回目ですからね、神戸での宝飾展は。手さぐりでしたよ。我慢できるのは、神戸の企業が中心となつて、世界中の真珠企業がここに集まっていることですね。それに、黒蝶真珠コーナーや白蝶真珠コーナーなどの、専門性の高い空間をつくっていることですよ」と高橋さんは胸をはってから、よくびびく男性的な声でさらにことばをはずませた。「神戸の町は震災で大きな打撃をうけましたが、この国際宝飾展にあわせて真珠の国際会議などのイベントを行うことで、日本の国内はもとより、世界中の宝飾業者に対して、真珠の集散地として、ますますその地域的機能が、重要視されている真珠の都である神戸を広くアピールして、真珠そのものの啓蒙をはかつていく場にしたいですね」



国際色豊かなレセプションパーティ



展示場内は目くらま宝飾品があふれていた

シンポジウム 「アコヤ真珠の今日と明日」

午後二時から、神戸国際展示場内の二階会議室で「アコヤ真珠の今日と明日」をテーマにシンポジウムがひらかれた。百二十名の収容能力をもつ会場に、二百名をこえる参加者が顔を出して、主催者の真珠新聞社は対応におおわらわだった。

テーマは大別して、つぎの三つに分けることができた。まず、真珠をつくるということの、世界中で最高の知識水準と、いま海のなかでおこっていることの、化学的な分析を明らかにしていくこと。つぎに、母貝別に多種多様な真珠が、世界の海から供給されているが、真珠とは何か、真珠の品質とは何か、といった点に関して、日本の側から問題提起がなされた。いまひとつは、これから先のいっさいを包みこんだうえでの、日本の真珠業界としての決意の表明がなされた。

講師陣は、日本真珠振興会・世界真珠機構の会長である岡崎俊作氏を中心に、元三重大学教授の和田浩爾氏と、ミキモト真珠研究所の所長である赤松蔚氏だった。和田氏は自分が真珠研究者である、といつてから、その立場での報告で、まずアコヤ貝が真珠をつくっていくプロセスを科学的に説明してから、移植、つまり真珠の養殖の改善や改良といった、

技術革新にふれてまだまだ進歩する要素はある、と報告した。さらには、遺伝的な特性と細胞の分化、品質にかかわる結晶や地球の温暖化の問題、生物が持っている機能が、今後のエンジンジニアリングのヒントになるのではないか、といったことや、生物産業と生きものの特性の研究や開発といったことの、今日的な状況を語った。

和田氏はアコヤの大量の変死にふれて、漁場の悪化や自然のエサの不足や、フグ養殖のホルマリンの影響や、ウィルス病説などにもその原因をさがしてから、アコヤ貝そのものが弱体化してきたのでは、と述べた。

赤松氏のテーマは、真珠の品質についての報告で、この問題の背景には、海場の老化と労働力の老化をあげ、さらには核の不足やゴカイの不足は、海が汚れているせいだろうといい、それらへの対応策として、JISのような真珠の規格化や品質委員会といった問題や、輸入真珠の品質のチェックにふれて、従来は生産者保護の立場だったが、今後は消費者を保護するうえで、情報の開示の必要性がある、と述べた。

講師陣の語り口は、真剣そのものだった。「アコヤ真珠の明日」についての三人の問題提起も個性的で未来性にとんだ夢と希望をもたせるものだった。



パールプリンセスが華やかさをそえた



シンポジウム場内は熱気につつまれていた

レセプションパーティー

午後六時から、むかいにある「神戸ポートピアホテル」で、レセプションパーティーがひらかれた。このパーティーは、第一回神戸国際宝飾展の開催記念を祝って、宝飾界を代表する人たちが、本展の出展社や、来場した人たちが、それにくわえて各国の大使館の関係者たちが、ホテルの「倍楽の間」に四百名以上も参加して、盛大におこなわれた。

主催者を代表して、リード・エグジビジョン・ジャパン株式会社の代表取締役の石積忠夫氏があいさつに立って、宝飾展の開催にいたるまでの過程をのべてから、「真珠の集散地で、世界的な取引の中心地である神戸で、大規模な展示会を開催することによって、真珠の街・国際都市神戸を、全世界にさらにアピールしたい」と決意のほどをあきらかにした。つづいて特別後援会長である田崎俊作氏が壇上になつて、この国際展示会の開催の意義をつぎのようにのべた。

「まず第一に、真珠の一大集散地として世界的に名高い神戸にとつて、初めての国際トレードショーとなること、またこれによって、真珠の街・神戸を、広く内外の関係者にアピール出来ること、第二に二十一世紀

紀の初頭に、日本真珠振興会が、真珠業界からの情報発信の一大拠点として、神戸のポートアイランドに建設を予定している「ワールドパールセンター」の実質的な下地づくりの役割をはたすこと、第三に、震災後の神戸復興のための有効な経済活性化の材料となることの、この三点であります」会場内に拍手が鳴りわたって、乾杯の用意がととのえられた。オープニングセレモニーの東京ディズニーランドの、デエキシーランドジャズの生バンドが、トランペットやトロンボーンでパーティーの雰囲気をつくりはじめた。参加者たちが祝杯のビールでのどをうるおすと、パールプリンセスたちはカメラのフラッシュをあびはじめた。料理やアルコールがふんだんにはこばれて、会場が宝飾展から豊食展へとプログラムがすすめられたような格好だった。

ポートピアホテルをあとにして、市民広場駅からポートライナーにのった。車窓にハーランドの巨大な観覧車が見えた。宝石のように光りかがやいていた。めずらしく星がでていた。美しいと思った。金星がぴかっ、ぴかっ、と、とめどなくまばたきをくりかえしていた。神戸の街の灯が、そのまばたきに輝きかえしていた。